

静岡県町村会長賞

ランは家族

森町立森小学校

四年 小 倉 咲 羽

わたしの家には、一匹の犬がいます。しば犬のオスで名前は「ラン」。今年の十一月で十六年になります。人間でいうと八十才のおじいちゃんです。わたしは、毎日ランに話しかけています。朝、学校から帰ってから、一輪車に乗る時、ねる前、おさんぼの時など。うちの家族の中で一番ランと仲良しです。犬の言葉がわかるまほうがあればなあとと思うほどです。だから、ランのことを一番よく知っていると思っています。そのランの様子がいともとちがい少し気になりました。いつもなら、元気に「ワンワン。」とほえているランは、ほとんどほえることがなくなりました。今年の春くらいから、へんなせきが出るようになりました。そして、暑い夏がやってきました。今年は、いつもの夏よりも、すごく暑くなりました。ランは、いつも庭にある小屋でくさりにつながれています。テントで日かげをつくってあっても、とてもつらそうにしています。ランは、あまりごはんを食べなくなりました。ある日、お母さんと一緒に、ランのおさんぼに行こうとした時、ランは、うまく立てずふらふらしてしまいました。ゆっくり少しずつくさをひっぱって連れ

ていこうとしても、後ろ足が、ひきずられている感じでうまく歩けないのです。いつもなら二十分くらいおさんぼするけど、この日は、家の前をちょこっと連れていくだけにしました。とてもかわいそうでした。心配になりわたしは、もしかして死んじゃうんじゃないかなあと思いました。そして次の日の朝、お姉ちゃんもお兄ちゃんもお父さんもお母さんもわたしも一番最初にランの様子を見に、庭へ行きました。ランは、ごはんもすっかり食べてあってちゃんと目も開けて元気でした。この時「ランも家族。」だなあと思いました。そして、あとどれくらい一緒にいられるかわからないけれど、ランが生きているかぎり「家族の一員。」としてずっとずっとやさしくしてあげたいです。